

平成28年8月1日

大平 勇議長

議員 海住恒幸

## 報告書

平成28年7月22日に津市で開催された「三重県国保広域化を考える交流セミナー」に参加しました。

### 三重県国保広域化を考える交流セミナー

主催 みえ労連ほか

開催日時 平成28年7月22日午前10時～午後4時

会場 三重県教育文化会館5階会議室（津市桜橋）

## 記

国民保険の広域化に向けた準備が進められている中、三重県の担当者と、三重短期大学の長友薫輝教授のお二人から報告を受けました。

三重県医務国保課長 中尾洋一氏 報告「国民健康保険の財政運営の都道府県化」
--

### 概要

市町村国保が抱える構造的な課題

- 1、年齢構成
- 2、財政基盤
- 3、財政の安定性・市町村格差・・・一人当たりの医療費・所得・保険料

### 県内の状況

高齢者・低所得者の加入割合が高い

小規模保険者が多い・・・県内29市町のうち18市町が被保険者数1万人以下

赤字保険者が多い・・・単年度実質収支で29市町中27市町が赤字

### 市町間の格差

・・・一人当たりの医療費1・40倍 保険料1・81倍 収納率9・43ポイント

### 広域化に向けての課題

市町が県に支払う納付金、市町ごとの標準保険料率の算定

収納率の向上・・・市町が賦課・徴収

当面のスケジュール

平成28年10月～11月 市町の県への納付金、標準保険料率の仮算定

29年10月 県国保条例の制定

30年4月 広域による国保スタート

三重短期大学教授 長友薫輝氏

講演 「国保の都道府県単位化を題材に～地域で医療保障をつくる視点を～」

概要

今日の国保の財政的問題は、本来、全額、税金で対応すべき人を国保に入れる仕組みとしたことが発端である。

所得格差と健康格差を連動させてはいけない。健康は貧富に関係なく守られるべきもの。よって所得格差の是正が必要

国保加入者の実態

所得無し世帯27・8% 所得100万円以下が55・3%

本来、社会保障の領域に保険方式を持ち込んだことに誤りがある。

社会保障の経済的波及効果

社会保障の経済波及効果・雇用誘発効果は、公共事業など他の産業より大きい。

地域で医療保障をつくる視点

計画に住民を当てはめるのは本末転倒。地域の医療需要の分析は、住民とともに。

以上